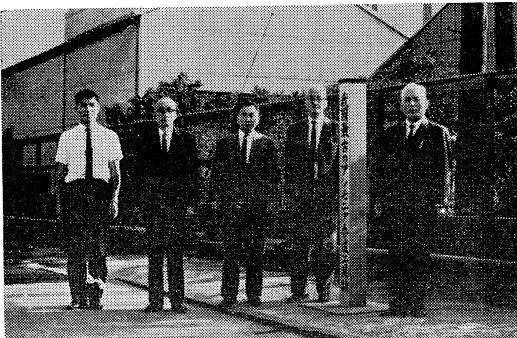


彦島を尋ねて

高石淳

本年三月、大阪で蔵前工業会の関西大会が開催され、その時、東洋高圧工業の石毛会長が理事長として学長と共にこれに出席され、私は同氏に何十年振りかで面会する機会を得ました。その時、彦島当時の昔話が出て、彦島の工場は当時（クロード式窓素工業）とはすっかり変って、今はアンモニア工場は無くなつて磷酸の工場になつたが、しかしあそこは鈴木商店からアンモニア合成功業

を継承して、我国アンモニア合成功業の発祥の地だから後日のため昨年、記念碑を建てるから序があつた。其後四月に辰巳会の大会があり、物故者の慰靈祭を行い、記念事業として物故者の慰靈塔を建立する事になり、これは会員の淨財を集め且つ関係会社よりも応分の寄附を仰ぐこととなり、私は昔在職して居た関係で日本油脂と東洋高圧の交渉



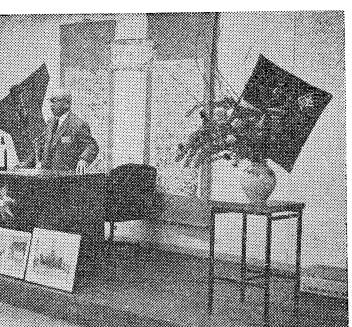
東洋高圧工業
彦島工場所
訪問スナップ
(右より)
高石 淳
柳田 義一
三宅 基樹
原 幾久
(東洋高圧工業
彦島工場所長
日本黒鉛耐火
株式会社社長)
柳田 祥三
(下)アンモニア合成功業
発生の地の記念碑を見る。



を受持った次第であります。何れも主旨に御賛同下され寄附を頂くことになりました。

さて塔建立に当たり、幹事の考想に

より塔の下敷に各事業の発祥の地より一握りの砂を収集することになつたので、この機会に前述の石毛会長の言葉に従い記念碑拝観旁々、アンモニア合成功業の発祥の地である東洋高圧工業の彦島工場所に一握りの砂を拝受のため同所を訪問することとし其旨を願い出たところ、是非とも御来彦を待つとの快諾を得たので柳田幹事と同道して、七月十八日「かもめ」で彦島をお尋ねした次第であります。本社より指示があったものと見え丁重なる出迎を受け、工場に案内されました。私は四十年振りに案内されました。私は四十歳振りの社員の方々の出迎を受け、早速終りに臨み、この度の吾々の彦島行に対し特別の御配慮を賜り、且つ丁重なる御歓待に預りました東洋高圧工業の皆様方に對し、心から深く感謝申上げて筆を擱きます。



▲ ありし日の十河氏の面影

十河一正氏

辰巳会発足の切掛けをつくり本会の為に不斷の努力を尽された幹事十河一正氏は昨春来自血病に冒され岡山医大附属病院平木内科に於いて万全の療養の甲斐もなく去る八月二十一日午前五時五十五分六十八才を一期として遂に黄泉の客となられた。謹んで哀悼の意を表します。

昭和42年9月1日発行

たつみ 第七号

編集の窓

編集人 柳田義一
発行人 辰巳会本部
神戸市生田区京町72
太陽鉛工株式会社内
電話 (33) 3281
分室 (39) 2254

その後に昔のアンモニア合成功業の説明には茲に建設の経緯が述べられており、殊にその中で鈴木商店の先輩諸賢の明断と勇気に対しても敬意を表するものであるとあります。これは金子翁に見せたいなど柳田さんの脳裡を走ったことであろうと想像しながら先を読むと、碑文はつづいてこれを三井鉱山が繼承し、其後東洋高圧工業の經營となり今日の発展を見るに至った旨を述べて居り実際に完壁で、石毛会長の人格がにじみ出て居り、よい事をされたと頭の下の思ひが致しました。

記念の砂を貰い、記念撮影をして工場を一巡しました。成程、昔の面影は全くなく、敷地は広く拡張され工場の建物も数多く、製品も全く新しく、主なものはトリポリ磷酸ソーダ、燐安、ホルマリン、ホルム室素ユーロイド等であるそうである。工場を廻って目についたものは昔、私が建てた変電所の建物が其儘残つて居り、製錬所時代からあつた給水塔、昔のアンモニア工場の基礎の一部等が残つて居たが、それに各々立派が立ててあり、記念物として残してある旨の説明が書いてあり、誠に

行き届いた事だと感心しました。その夜は八千代クラブと言う来賓専用のクラブに案内され、三宅所長以下五名の部課長幹部の接待を受けて、旧友原幾久君（辰巳会員）も加わり、愉快な一夜でありました。席上、即吟で次の愚作を朗吟致しました。

其夜はクラブに一泊、翌十九日午前十時、下関発の「しおじ」で帰りましたが、よい旅行でありました。終りに臨み、この度の吾々の彦島行に対し特別の御配慮を賜り、且つ丁重なる御歓待に預りました東洋高圧工業の皆様方に對し、心から深く感謝申上げて筆を擱きます。

（七月廿五日記）

訪彦島

玄海波穏望六連
彦島風物驚遷
安母尼亞工場既無姿

慶東洋高圧発展。

蒲公英の絮

柳田義一

石階を喘ぐや落葉肩に乗る

歳末売れのこるショールの狐眼をつぶる

背を立てる恋猫倦怠の影を引く

追儻の豆を噛んで咽喉から星を吐く

柚子を籠に充して海の光で送る

蒟蒻が煮えて春海鳴つてゐる

もの足らずと鳴くや千鳥が逆さまに

蒲公英の絮吹いて女呆けにけり

解散運命の哀しき日より四十周年を迎えた。之を期して去る四月五日、全国大会を催し、会場である市背の篠原祥龍寺に於いて物故の方々の慰靈がしめやかに厳修された。こ